

事業所名

児童支援センターさんぽ（燦保）

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和7年

4月

1日

法人（事業所）理念	能真（ノーマ）の語源は福祉の基本理念であるノーマライゼーションに由来し、障害があっても高齢期になっても誰もが安心し普通に暮らせる社会の創造を目的に設立しました。また、具体的理念の達成方策として「すべての人（ご利用者）にりすべくとを」とし、4つの実践項目を掲示している。						
支援方針	子どもの特性や個性を踏まえ、安全で安心できる環境のなかで、楽しい遊びを中心に「ゆっくり丁寧に待つ事のできる保育」「叱責せず、せかさず、慌てない」をモットーに、子どもの興味関心を見落とす事なく、最大の発達効果が得られるよう、少人数による個別支援を行います。繰り返し、立ち止まり、振り返りながら苦手な部分や弱い部分へ大好きな遊びの中で時間をかけ丁寧に支援を行います。						
営業時間	8時	30分から	17時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	安全な生活行動（体調管理に必要な事柄（食事・排泄・運動・睡眠）を家庭と情報共有し支援する他、公共の場でのマナーやルール・交通ルール）を見につける。 身の回りの事が一人でできるようになる。 規則正しい生活リズム（朝・日中・夕・夜・就寝）が整うよう日中支援と助言を行う。					
	運動・感覚	様々な遊びを通してフィジカルの基礎に必要な遊びを通し感覚統合【五感（視・聴・嗅・味・触）と言われる感覚器官から受けた刺激を、知覚神経を介して脳で認知し、情報を選択・整理し・判断したことを運動神経を介して筋肉に伝え、運動を起こしていくこと】を行っていく。具体的にはすべての提供する遊びに意味付けと評価を行いエビデンスに基づく療育を行う。 繰り返しの活動でボディイメージを掴み身体能力を身に付けていく。					
	認知・行動	絵カード（文字・数・モノ・色彩・感触）や絵本（抑揚や喜怒哀楽・エピソード感覚）を用いて、物の名前や用途など認知力・感性を高めて行く。 ルールのある遊びを通して、「ルールを理解する事」「ルールを守って楽しく遊ぶ事」を経験する。					
	言語 コミュニケーション	ST指導の下、語彙力や認知の評価を行い、その子に必要な支援を行っていく。 絵本の読み聞かせや言葉遊びで語彙力を高める。 コミュニケーションの楽しさを伝えながら、挨拶や基本的な会話の練習（言葉のキャッチボール）を行っていく。 自分の気持ちを言葉にして伝えられるよう、気持ちに寄り添い代弁しながら伝え方を知らせていく。					
	人間関係 社会性	優秀な子ども=優しさに秀でるパーソナルトレーニング（基本はあいさつや感情を言葉にする）を行う他、集団での活動を通して協調性を養っていく。 感情のコントロールや気持ちの切り替え方を練習していく。 お友達の気持ちを汲み取ったり表情に気づけるようSSTを行っていく。					
家族支援	連絡帳を通して蓄での活動の様子とご自宅での様子の共有を行う。 家庭からの相談に対する適切な助言を行う。			移行支援	就学へ向けての移行支援 他事業所との連携		
地域支援・地域連携	保育所・学校・医療機関等との情報連携や調整、支援方法や環境調整などに関する相談援助			職員の質の向上	月1回の事業所内での研修や外部での研修に参加しスキルアップを目指す。 支援後のミーティングにおいて振り返りを行っている。		
主な行事等	季節に応じた活動（節句遊び（正月・豆まき、ひな祭り、花見、端午等）初詣・どんどや・節分・ひな祭り・夏の水遊び・夏まつり体験・クリスマス会等） 地域行事への参加（夏祭り・秋の例大祭など）						